

「きばっど」 南薩の社会教育



家庭の教育力の向上



青少年教育の充実



人権教育の充実



地域の教育力の向上



文化財の保存・活用

令和3年3月発行

南薩地区社会教育振興会



令和2年度 社会教育関係者・団体表彰



1 PTA関係

【九州ブロックPTA協議会表彰】

- ・別府中学校PTA(枕崎市)

【県PTA連合会表彰】

- ・南九州市PTA連絡協議会(南九州市)

【県PTA広報紙コンクール(令和元年度)】

- ・最優秀賞 県立加世田高等学校PTA(南さつま市)
- ・佳作 南九州市立川辺小学校PTA(南九州市)
- ・佳作 指宿市立指宿商業高等学校PTA(指宿市)

【県PTA「楽しい子育てコンクール(三行詩)」】

[小学校の部]

- ・佳作 下窪 剣心(南九州市立栗ヶ窪小学校1年)

2 公民館関係

【県共生・協働型地域コミュニティづくり推進優良団体表彰】

- ・奨励賞 NPO法人わくわくプロジェクト(南九州市)

3 地域学校協働活動関係

【「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰】

- ・今和泉小学校区(指宿市)

4 社会教育振興会関係

【地区社会教育振興会表彰】

- ・白澤 玲子(枕崎市)
- ・村山 陽子(指宿市)
- ・瀬戸 敏典(南さつま市)
- ・内山田キッズわくわく塾(南さつま市)

5 文化財関係

【かごしま無形民俗文化財(民俗芸能)伝承活動表彰】

- ・利永琉球傘踊り保存会(指宿市)
- ・サンコンメ保存会(指宿市)
- ・成川神舞保存会(指宿市)
- ・土踊り保存会(南さつま市)
- ・上別府太鼓踊保存会(南九州市)

6 子ども会関係

【県子ども会育成連絡協議会表彰】

- ・枕崎市子ども会育成連絡協議会(枕崎市)
- ・竹ノ内 剛(南さつま市)
- ・瀬戸口 和宏(南九州市)
- ・霜出校区子ども会育成連絡協議会(南九州市)

【県優良少年少女団体表彰】

- ・西白沢子ども会(枕崎市)
- ・万世校区唐仁原子ども会(南さつま市)
- ・内山田校区子ども会(南さつま市)

【地区子ども会育成連絡協議会表彰】

- ・大堀子ども会(枕崎市)
- ・二月田子ども会(指宿市)
- ・武田上子ども会(南さつま市)
- ・川辺校区子ども会育成連絡協議会(南九州市)
- ・満永 真理(南九州市)

7 読書活動関係

【子供の読書活動優秀実践校・図書館・団体(個人)文部科学大臣表彰】

【子供の読書活動優秀実践校】

- ・田布施小学校(南さつま市)

【子供の読書活動優秀図書館】

- ・枕崎市立図書館(枕崎市)

【図書館法施行70周年記念図書館関係者(文部科学大臣表彰)】

- ・朝田 栄子(枕崎市)

【「毎月23日は子どもといっしょに読書の日」表彰】

【ポスター原画コンクール】

- ・入選 俵積田 くるみ(枕崎市立別府小学校6年)

【県図書館大会表彰】

【優良読書グループ表彰(県図書館協会・県読書推進運動協議会)】

- ・すずの音(枕崎市)
- ・おはなし ととけっこう(南さつま市)

【永年勤続者表彰(県図書館協会)】

- ・中村 ゆかり(枕崎市)

8 少年の主張鹿児島県大会

- ・優良賞 鶴田 花稟(指宿市立南指宿中2年)

9 地域が育む「かごしまの教育」県民週間

【ポスター原画】

- ・優秀賞 久保 一粋(指宿市立利永小学校5年)
- ・特選 岩元 慶真(南さつま市立内山田小学校6年)
- ・入選 丸野 蓮(南さつま市立万世小学校1年)
- ・入選 下窪 花子(南九州市立栗ヶ窪小学校1年)
- ・入選 上野 倅礼(南九州市立勝目小学校3年)
- ・入選 末永 麗桜(南九州市立大丸小学校6年)

【標語】

- ・学校賞 指宿市立指宿小学校
- ・優秀賞 平畑 佳哉(指宿市立指宿小学校6年)
- ・優秀賞 椿山 光希(南九州市立顕娃中学校2年)
- ・特選 瀬川 華夢(南九州市立顕娃小学校3年)
- ・特選 甲斐 愛咲(枕崎市立枕崎小学校4年)
- ・入選 壽 願生(南九州市立別府小学校1年)
- ・入選 上東 武啓(南さつま市立川畑小学校3年)
- ・入選 中村 元(指宿市立柳田小学校5年)

10 「家庭の日」絵画・ポスター・標語関係

【学校賞】

- ・優秀学校賞: 枕崎市立枕崎小学校

【絵画の部】

- ・最優秀賞: 桐木原 桜(南九州市立大丸小5年)
- ・優秀賞: 下窪 咲太郎(南九州市立栗ヶ窪小1年)
- ・優秀賞: 小川 悠綸(指宿市立開聞小4年)
- ・優良賞: 射場山 桃愛(指宿市立利永小2年)
- ・優良賞: 上久保 美穂(南九州市立大丸小5年)
- ・優良賞: 前畠 鈴心(指宿市立利永小6年)
- ・努力賞: 中原 美桜(枕崎市立別府小1年)
- ・努力賞: 田中 凜(指宿市立開聞小2年)
- ・努力賞: 籠原 優信(南九州市立中福良小2年)
- ・努力賞: 坂元 建太(南九州市立霜出小3年)
- ・努力賞: 小川 愛心(指宿市立開聞小6年)
- ・努力賞: 中野 美菜江(南九州市立松原小6年)
- ・努力賞: 橋口 真恋(南さつま市立加世田中2年)

【ポスターの部】

- ・最優秀賞: 橋口 真桜(南さつま市立内山田小5年)
- ・優秀賞: 猪谷 真澄(枕崎市立桜山小6年)
- ・優秀賞: 廣瀬 あずき(指宿市立開聞小6年)
- ・優良賞: 西元 南行(指宿市立利永小6年)
- ・努力賞: 盛迫 鈴奈(南九州市立栗ヶ窪小6年)
- ・努力賞: 村方 楓(南九州市立知覧小6年)
- ・努力賞: 東 那菜(南さつま市立加世田中3年)

【標語の部】

- ・最優秀賞: 大木 慎也(南さつま市立大笠中3年)
- ・優良賞: 福元 賀久(南九州市立松原小2年)
- ・優良賞: 盛迫 愛奈(南九州市立栗ヶ窪小2年)
- ・優良賞: 細山田 ひより(指宿市立開聞中2年)
- ・努力賞: 水溜 桃菜(南さつま市立益山小4年)
- ・努力賞: 福里 芽生(指宿市立山川小5年)
- ・努力賞: 麥田 望華(指宿市立丹波小6年)

人権教育の充実

【第1回地区社会教育担当者研修会】

令和2年7月3日（金）

指宿市ふれあいプラザなのはな館にて、各市社会教育担当者19人が参加して研修会が行われました。まず、開催地である指宿市教育委員会の内村喜代志社会教育課長から、開会の挨拶とともに指宿市における社会教育の現状と今後の展望について説明していただきました。

研修Ⅰでは、かごしま県民大学中央センター学習情報係長の弓指修氏による「みんなで考えるメディアとの上手な付き合い方」と題した講話が行われ、「子供防犯スクールネット・SNSトラブル編」のDVD視聴のあと、御自身の親としての経験談を交えながら、家庭内ルールのポイントなど情報モラル教育やインターネットによる人権侵害について示唆に富む講話を拝聴することができました。

研修Ⅱでは、「各市における家庭でのメディアとの付き合い方」をテーマとしたグループ討議が行われ、各市における取組の情報交換やメディア講座等を活用した啓発活動の在り方など活発な討議が行われました。



〈弓指修氏の講話〉



〈グループ討議〉

【コロナ禍における人権啓発】

新型コロナウイルス感染症への対応が長期化するなか、恐怖心や不安感を背景とした「コロナ差別」といわれる人権侵害が全国各地で起こりました。本県においては、県民、児童生徒の皆さんへ、人権への配慮について、次のようなメッセージが発信されました。

～新型コロナウイルス感染症に関連する人権への配慮について～ （県HPより抜粋）

〔県民の皆さんへ〕（県総務部男女共同参画局人権同和対策課）

～新型コロナウイルス感染症に心でまけない行動を！～

○偏見や差別を許さない。 ○デマや誤った情報に惑わされない。

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、感染へのおそれや不安などから、感染者やそのご家族に対する誹謗・中傷、インターネット上での悪質な書き込み等が行われています。

また、医療機関や介護施設、物流・交通事業、小売業等で働いておられる、私たちの命を守り、暮らしを支えてくださっている方々とそれぞれのご家族、県外から来られた方などへの差別的言動も発生しています。

このような人権を侵害し、仕事や暮らしを脅かす行為は、決して許されるものではありません。

県民の皆様には、偏見や差別を行うことなく、デマなどに惑わされることなく、冷静に行動してくださるようお願いいたします。

〔児童生徒の皆さんへ〕（県教育庁人権同和教育課）

新型コロナウイルス感染症に負けないために

みんなで力を合わせて立ち向かおう！

新型コロナウイルス感染症には3つの「こわい顔（感染症）」があることを知っていますか？

この3つの「こわい顔」にみんなで力を合わせて立ち向かうことは、自分を大切に、まわりの人を大切にすることにつながります！

★3つの「こわい顔」に立ち向かう勇気ある行動！！

◇ 第1の顔「病気」〈感染拡大〉

ウイルスから自分を守る行動を、自分のためだけでなく周りの人のためにもすることが大切です。

◇ 第2の顔「不安」〈感染したくない、逃げたい〉

不安になったり、こわくなったりする気持ちに振り回されないことが大切です。

◇ 第3の顔「差別」〈不満をぶつけない〉

不安やこわがる気持ち・ストレスから、「いじめ・偏見・差別」が生まれるのを止めることが大切です。

家庭の教育力の向上

【県PTA活動研究委嘱公開（枕崎市大会）】

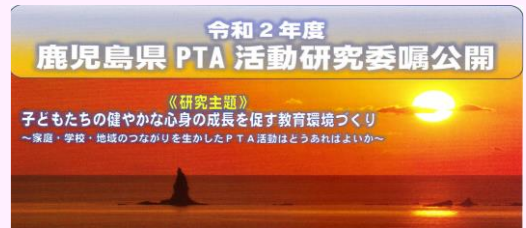
例年、PTA関係者600人余が参加して開催されていますが、新型コロナウイルス感染症対策による観点から、WEB配信による大会に変更となりました。

本年度は、「子どもたちの健やかな心身の成長を促す教育環境づくり ～家庭・学校・地域のつながりを生かしたPTA活動はどのようにあればよいか～」をテーマとした活動発表が行われました。

別府小学校活動紹介では「全疾病治療率70%以上をめざした取組」を、PTA年間活動のテーマとして掲げたことで保護者の意識が高まり、年間をとおした継続的な取組となり、全疾病治療率が大幅に改善された」との成果が発表されました。

また、桜山中学校活動紹介では「生徒の健全育成のために、学校・家庭・地域をつなぐ桜山中学校PTA活動をテーマとした取組により、我が子の日々の成長は、様々な方々のあたたかいつながりのおかげと実感できた。そして、保護者がつながりを持ち活動する姿から、子ども自身も主体性を持って様々な活動に取り組む意欲につながっている」との成果が発表されました。

WEB配信の内容は、(1)枕崎市の紹介 (2)子どもたちのアトラクション (3)別府小学校活動紹介：テーマ「全疾病の治療70%以上をめざした取組」 (4)桜山中学校活動紹介：テーマ「生徒の健全育成のために、家庭・学校・地域はどのようにつながればよいか」 (5)市PTA連絡協議会会長挨拶等で、令和2年12月5日から平成3年1月末まで公開されました。



青少年教育の充実

本年度は、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、南薩地区としての子ども会に係わる行事はすべて中止となりましたが、各市の支部や校区単位においては、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、青少年ふるさと美化活動や研修会などの子ども会活動が実施されたところがありました。

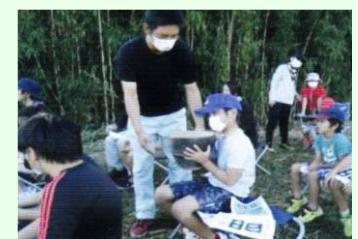
例年、南薩地区子ども会連絡協議会においては、次のような行事が計画されていますが、来年度は、コロナ禍における新しい生活様式による体験活動が展開されるのではないかと思います。

【南薩地区子ども会連絡協議会の主な行事】

- 1 地区子ども会大会及び育成者・指導者研修会（6月）**
地区内の子ども会及び育成者・指導者、行政関係者など400人余が参加しています。来年度は、枕崎市で開催される予定です。
- 2 北薩・南薩地区ジュニア・リーダー及び高校生クラブ等交流会（8月）**
北薩・南薩地区子ども会、高校生クラブ、ボランティアグループ等で活躍している中・高校生など60人余が参加しています。来年度は、南薩地区で開催される予定です。
- 3 地区子ども会ジュニア・リーダー研修会（10月）**
南薩地区の中・高校生など30人余が参加しています。北薩・南薩地区交流会が北薩地区開催の年度に実施します。次回令和4年度は、指宿市で開催される予定です。
- 4 地区子ども会安全教育研修会・創作活動大会（11月）**
地区内の子ども会員や育成会会員など200人余が参加しています。来年度は、南さつま市で開催される予定です。



〈青少年ふるさと美化活動〉



〈子ども会の研修会〉

人権教育の充実

【第1回地区社会教育担当者研修会】

令和2年7月3日（金）

指宿市ふれあいプラザなのはな館にて、各市社会教育担当者19人が参加して研修会が行われました。まず、開催地である指宿市教育委員会の内村喜代志社会教育課長から、開会の挨拶とともに指宿市における社会教育の現状と今後の展望について説明していただきました。

研修Ⅰでは、かごしま県民大学中央センター学習情報係長の弓指修氏による「みんなで考えるメディアとの上手な付き合い方」と題した講話が行われ、「子供防犯スクールネット・SNSトラブル編」のDVD視聴のあと、御自身の親としての経験談を交えながら、家庭内ルールのポイントなど情報モラル教育やインターネットによる人権侵害について示唆に富む講話を拝聴することができました。

研修Ⅱでは、「各市における家庭でのメディアとの付き合い方」をテーマとしたグループ討議が行われ、各市における取組の情報交換やメディア講座等を活用した啓発活動の在り方など活発な討議が行われました。



〈弓指修氏の講話〉



〈グループ討議〉

【コロナ禍における人権啓発】

新型コロナウイルス感染症への対応が長期化するなか、恐怖心や不安感を背景とした「コロナ差別」といわれる人権侵害が全国各地で起こりました。本県においては、県民、児童生徒の皆さんへ、人権への配慮について、次のようなメッセージが発信されました。

～新型コロナウイルス感染症に関連する人権への配慮について～ （県HPより抜粋）

〔県民の皆さんへ〕（県総務部男女共同参画局人権同和対策課）

～新型コロナウイルス感染症に心でまけない行動を！～

○偏見や差別を許さない。 ○デマや誤った情報に惑わされない。

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、感染へのおそれや不安などから、感染者やそのご家族に対する誹謗・中傷、インターネット上での悪質な書き込み等が行われています。

また、医療機関や介護施設、物流・交通事業、小売業等で働いておられる、私たちの命を守り、暮らしを支えてくださっている方々とそれぞれのご家族、県外から来られた方などへの差別的言動も発生しています。

このような人権を侵害し、仕事や暮らしを脅かす行為は、決して許されるものではありません。

県民の皆様には、偏見や差別を行うことなく、デマなどに惑わされることなく、冷静に行動して下さるようお願いいたします。

〔児童生徒の皆さんへ〕（県教育庁人権同和教育課）

新型コロナウイルス感染症に負けないために

みんなで力を合わせて立ち向かおう！

新型コロナウイルス感染症には3つの「こわい顔（感染症）」があることを知っていますか？

この3つの「こわい顔」にみんなで力を合わせて立ち向かうことは、自分を大切に、まわりの人を大切にすることにつながります！

★3つの「こわい顔」に立ち向かう勇気ある行動！！

◇ 第1の顔「病気」〈感染拡大〉

ウイルスから自分を守る行動を、自分のためだけでなく周りの人のためにもすることが大切です。

◇ 第2の顔「不安」〈感染したくない、逃げたい〉

不安になったり、こわくなったりする気持ちに振り回されないことが大切です。

◇ 第3の顔「差別」〈不満をぶつけない〉

不安やこわがる気持ち・ストレスから、「いじめ・偏見・差別」が生まれるのを止めることが大切です。

地域の教育力の向上

【地区社会教育委員研修会】 令和2年10月2日(金)

指宿市ふれあいプラザなのはな館にて、各市社会教育委員、生涯学習課長、社会教育課長等45人が参加し、「南薩の教育を生かした学校と地域の連携・協働の在り方～地域と学校が協働する仕組みづくり・つながりづくりの促進～」を令和2、3年度のテーマとして研修会が行われました。

本年度は、かごしま県民大学中央センター学習情報係長の弓指修氏を講師に「体験をとおした情報モラル」と題した講話やタブレット端末によるシミュレーション体験等を行いました。

研究協議では「南薩の教育力を生かした学校と地域の連携・協働の在り方」をテーマとしたグループ討議を行い、過疎化や少子化に対応した意識改善や新しい発想の取組が必要であるなどの意見が聞かれました。



〈弓指修氏の講話〉



〈グループ討議〉

【かごしま地域学校協働活動研修会(南薩会場)】 令和2年11月13日(金)

南九州市市民交流センターひまわり館にて、地域学校協働活動推進員、小・中学校教職員、学校教育・社会教育行政関係者48人が参加して行われました。

まず、鹿児島大学法文学部法経社会学科准教授の金子満氏に「地域学校協働活動の充実に向けて」という演題で、地域や学校の実情に応じた多様な団体・機関との連携の在り方や地域学校協働活動を展開するためのコーディネート力・調整力の向上について講義をしていただきました。その中で、全国で初めての現役高校生町内会長として新聞等で紹介された金子陽飛さんの実践報告がありました。

その後、県社会教育課の「本県の取組状況とこれらの推進等について」の説明と、各市町村における目指す子供像や、実際にできることについてワークショップ形式で意見交換を行い、実践に役立つための情報共有がなされました。



〈金子満氏の講義〉

地域文化の継承・発展，文化財の保存・活用

【第62回九州地区民俗芸能大会(大分大会)】 令和2年11月8日(日)

県指定無形民俗文化財である南さつま市竹田神社土踊(二才踊)保存会の加藤隆会長をはじめ、計30人の皆さんが出演しました。

土踊は、戦国時代に島津家中興の祖、日新公として親しまれる島津忠良が、嫡男貴久とともに薩摩・大隅・日向の三州を平定し、凱旋した時に、家臣を集めて踊らせたのが始まりと伝えられています。毎年、7月23日に開催される竹田神社夏祭りに奉納されていますが、今年は新型コロナウイルス感染防止のため中止となりました。大会に向けた準備に大変な苦勞もありましたが、400年以上の歴史を伝える勇壮な踊を披露することができました。来年度は、鹿児島県開催の予定です。



〈土踊〉

【地区「指定文化財」巡回視察】 令和2年11月17日(火)

枕崎市市民会館にて、県文化財保護指導委員、各市文化財行政担当者、県文化財課、南薩教育事務所から18人が参加して行われました。

例年、参加者全員がマイクロバス等に同乗し、開催市文化財の現地視察を行っていましたが、本年は、新型コロナウイルス感染症防止の観点から内容を検討し、枕崎市文化財保護審議会の山崎盛隆会長に資料による紹介を行っていただきました。

また、平成30年度の文化財保護法の改正に伴う「県文化財保存活用大綱策定に係る意見交換会」も開催され、県文化財課指定文化財係の住吉啓三、坂口崇一郎、両文化財主事による概要説明と、各市の課題や要望等についての意見交換が行われました。南九州市が進めている「文化財保護活用地域計画」の情報提供をはじめ、各市の文化財保存活用の取組状況や課題等について情報交換の機会となりました。



〈山崎会長による文化財紹介〉



〈意見交換会〉



家庭での過ごし方アンケートの実施（家庭の教育力の向上）

枕崎市では、家庭教育力の向上をめざす重点指導項目として、「家庭学習 40・60・90・120 運動」「ノーメディア・メディアコントロールの徹底」、「親子 20 分読書の充実」に取り組んでいます。

具体策として、家庭教育で困った時のヒントとなるように「まくらざき家庭教育手帳」を作成しています。さらに、保護者の学ぶ機会を増やすために、家庭教育学級だけでなく「生涯学習かごしま県民大学講座」や「かごしま子ども・若者の総合相談センター講演会」、「人権問題啓発研修会」等を開催しています。

また、今の保護者の悩みや課題を知るため、「家庭での過ごし方アンケート」を年2回、全ての小中学校の保護者を対象に実施しています。アンケートの集計結果は、明らかになった課題改善のヒントの資料と併せて、全ての保護者に返すようにしています。

保護者の家庭学習への関心が高まるよう、資料の内容など、工夫をしながら作成しています。

令和2年9月4日
枕崎市教育委員会生涯学習課

保護者の皆様

家庭での過ごし方に関するアンケート結果について

7月に、枕崎市の全小・中学校の児童生徒を対象に行った家庭での過ごし方に関するアンケートの調査結果です。

1 最近1週間の、1日あたりの家庭学習の時間は平均どれくらいですか。（塾や学習塾での学習時間も含みます。）

1日あたりの家庭学習時間の目標達成率

○ 家庭での学習を「ほとんどしない」児童生徒が多いが、各学年の目標を達成している割合は、学年が上がるにつれて低くなっている。

家庭学習で保護者のお困りしたい3つのポイント

1 子供が苦学な資料、身に付けていない単元を指す！
ポイント①：教科書の目次を確認して、子供の現在地を確認しましょう。

正しい理解が分ると、目的別にたどり着くための方法も変わります。教科書の目次を使って、理解度をチェックしましょう。

教科書を使って「字表と一緒に調べたい」といいます。「単元が自分分かっていないから」、「分かっていないから」、「少し分らない部分があるから」を目次につけたいというステップで、どのような学習をしているのか、「どこまでやっているのか」をチェック。学習内容を把握することで、家庭学習を取り入れます。どんなことをすればいいのかわからない場合は、家庭学習のやり方は学校にも相談してみましょう。

②保護者アンケートから

- 保護者の愛読で自由時間に読む本を、想い解いてもらいます。すぐく簡単に（見し難、引き算）です。在夫をもちょう、一生懸命しています。
- 子供たちと話しながら、苦学な部分と一緒に復習し始めるようにする。
- 家庭で取り進めれば、苦学の時間を減らすことで時間をかけています。苦学なことを克服できるようにしています。
- 学習にかけられる時間には個人差があるので、それぞれが自分なりに内容を把握させる方法を考えた方がいいと思います。テスト等でできなかったところの復習を親子でしっかりできればと思うのですが、日々の暮らしでなかなか難しく、理解は子供が理解していない部分を保護者が把握することなどは見えています。

〈アンケート集計結果とヒント資料〉

地域学校協働活動の推進（地域の教育力の向上）



〈習字の指導の様子〉

本年度から、本市では地域学校協働活動の推進と充実のために、「統括コーディネーター」を配置しました。地域学校協働活動については、「まくらざき学校応援団」を基盤としながら、学校と家庭、地域が、「未来を担う子供たちの学びや成長を支える」とともに、「学校を核としたよりよい地域づくり」を行うため「連携・協働」した双方向の活動となるよう取組を進めてきました。

習字やミシンの指導などの学習支援活動を中心としながら、地域住民の方の、「枕崎の子供たちに習字の楽しさを知ってほしい」という思いに応え実施した「書道教室」、高齢者の方が子供たちのために夏休みに実施した「史跡めぐり」、少子化による後継者不足に悩む地域の郷土芸能の体験活動「駒水ヤンセ踊り体験」を実施することができました。

活動の様子については、「地域学校協働活動だより」を作成し、広く市民に広報・啓発しています。より多くの方に活動を知っていただくために枕崎市のホームページにも掲載しています。また、市内4中学校区毎に年3回実施する「地域学校協働活動推進委員会」では、活動の成果と課題を検証しながら、これからの活動への改善の手立てと今後の計画について、話し合っています。

〈史跡めぐりでの一コマ〉



枕崎市 令和3年1月号

地域学校協働活動だより

インターネットでの枕崎市ホームページの検索方法
枕崎市地域学校だより 印刷

発行
枕崎市
教育委員会
生涯学習課

発行までおめでとうございます。
枕崎市では学校応援団などのボランティアの方々が、コロナに負けずに子供たちと様々な地域学校協働活動を行っています。
「地域学校協働活動だより」は枕崎市のホームページにも掲載されていますので、QRコードやパソコンで検索してご覧ください。

～郷土教育で「駒水ヤンセ踊り」の学習～
別府小学校

別府小学校では6年生の郷土教育として、10月から11月にかけて「駒水ヤンセ踊り」を6回にわたって学習しました。「ヤンセ踊り」は、歴史地区の駒水に古くから伝わる郷土芸能です。「駒水ヤンセ踊り保存会」の人たちが毎週学校に来て、子供たちに踊りを指導してくださいます。

最初は「ヤンセ踊り」指導の様子に、なかなか踊りを覚えられなかった子供たちでしたが、練習の回数が増えるたびにめきめき上手になりました。
11月19日は駒水の地元の人たちを前にして、20日別府小学校の学習発表会で、衣装を着て踊りの披露を行いました。観客を前にしてのヤンセ踊りは、踊りが進んだ素晴らしい発表で、観客の人たちの大きな拍手を受けていました。



指宿市の取組

「コロナ禍でも文化の灯を絶やさずに」

平成2年度から始まった「いぶすきシルバー美術展」は今年で31回目を迎えました。

この美術展は、60歳以上の方ならどなたでも応募資格を持つユニークな公募展です。8月3日から18日までの16日間の開催予定でしたが、指宿市内の医療機関における新型コロナウイルス感染症の集団感染を受け、8月15日で終了となりました。

美術展の開催に当たり、美術展に従事するスタッフについては、マスク、手袋、フェイスシールドの着用の上、受付や会場案内に従事しました。また、鑑賞に来られた方に対しては、アルコール消毒・検温・マスク着用・入館者カードの記入・入館制限など感染防止対策を十分に講じました。

会期を短縮することとなりましたが、コロナ禍で様々なイベントが中止になるなか、シルバー世代の方々が芸術に親しみ、生きがいがづくりとなっていることを鑑み、また、鑑賞される方が素晴らしい作品に出会い明るい気持ちになっていただきたいという考えから、開催することに決定いたしました。

展示が中止となる場合を想定して、今年のパフレットは全ての作品を掲載し、また、出品者の想いも作品に添えて、より作品をお楽しみいただけるようにしました。

8月15日で展示が中止になってしまいましたが、鑑賞に来られなかった方のために、時遊館COCOCOはしむれや指宿市役所で作品集を配布しました。一人でも多くの方に「いぶすきシルバー美術展」を知っていただき、また、作品を楽しんでいただけるようにしました。

出品された方からは「コロナ禍で今年は開催するの心配していましたが、出品できて良かったです。」
「すべての作品が載っていて、素晴らしい作品集です。宝物にします。」という喜びの声をいただきました。また鑑賞に来られた方からも「このような状況の中で暗い気持ちになりがちですが、シルバー世代の方々の素晴らしい作品に元気をもらいました。」「より出品者の想いを感じながら鑑賞することができました。」という感想をいただきました。

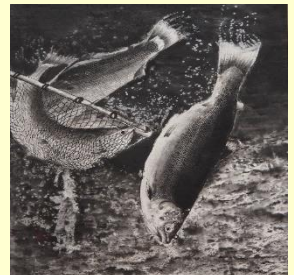
開催するまでに何度も協議を重ねて、慎重に開催することを決定しましたが、出品者や鑑賞された方のこのようなありがたい言葉をお聞きし、30年間続いてきた「いぶすきシルバー美術展」を絶やさずに今年も開催できたことに大きな意義を感じることができました。コロナ禍での開催でしたが、「文化力」により地域全体を元気にする機会となりました。



〈受付での新型コロナウイルス感染対策〉



〈会場内の様子〉



〈最優秀賞「収穫」〉

With コロナ時代のイベント運営 ～「生涯学習フェスティバル」開催！～

令和2年12月5日、ふれあいプラザなのはな館において「令和2年度指宿市生涯学習フェスティバル」を開催しました。今年は、新型コロナウイルス感染症の影響で、多くのイベントや講座が中止や延期となり、当フェスティバルも例年より大幅に規模を縮小しての開催となりました。感染症対策として、①マスクやフェイスシールドの着用②手指消毒の徹底③検温の実施④健康チェックシートの記入依頼⑤来場者の事前申込、完全指定席制⑥こまめな換気⑦会場内での飲食禁止などに取り組みました。

当日は、これらの感染症対策を行いながら、各種表彰の授与・伝達をはじめ、生涯学習講座受講生の作品展示や関係団体のPR展示、ものづくりワークショップ、ニュースポーツ体験、出張健幸鑑定団などのブースを設け、来場者楽しんでいただきました。特に、オンライン会議システム「Zoom（ズーム）」の体験コーナーでは、「コロナ禍で、なかなか会うことができない県外在住の家族とオンラインでコミュニケーションがとれるようになりたい」と70代後半の女性が熱心に学習している姿に感銘を受けました。また、同日開催した「人権教育講演会」では、「新型コロナウイルス感染症から『大切な人』を守るために」と題し、鹿児島県教育庁人権同和教育課の吉満ふくみ指導主事にご講演いただき、新型コロナウイルス感染症についての正しい知識を習得し、根拠のないデマや誹謗中傷から家族や友人など『大切な人』を守ること、他者への思いやりの心をもつことなどについて学びました。

来年度も引き続き With コロナに対応したイベント運営や講座運営が想定されますが、「学びを止めない」ために、一人ひとりができることを考えながら、生涯学習の更なる推進に向けて、一丸となって取り組んでいきたいと思います。



〈Zoom体験〉



〈人権教育講演会〉



家族でチャレンジ！ in 南さつま

南さつま市では、令和元年度から「家族でチャレンジ！ in 南さつま」事業を開催しています。この事業は、社会教育委員の会から「家族がモノ作りを通して、互いのきずなを深め合うとともに、地域の人々とふれあい、『つながり』の大切さに気付くことができる機会とする事業」として提案がなされたものです。

令和元年度は、老人クラブ（高橋長寿会）の皆様方の御協力の下「竹トンボづくり」を実施し、県立南薩少年自然の家の御協力で「万之瀬川流域ふるさとウォッチングサイクリング」を行いました。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、老人クラブへの協力依頼は自粛いたしました。県立南薩少年自然の家の御協力の下「ペットボトルロケット」の作成と発射体験を行いました。

参加した家族からは、「老人クラブの方々の御指導の下、竹トンボづくりをとおして、楽しい時間を過ごすことができました。」「サイクリングをしながら、南薩少年自然の家の方に万之瀬川周辺の自然について説明をいただき、地元のすばらしさを知る機会となつて良かった。」「家族で協力してペットボトルロケットを作成し、発射体験までできました。きずなが深まった。」などの感想をいただきました。

今後も、感染症の拡大防止に努めながら、家族のきずなづくり、地域の人々とのつながりづくりのために、この事業を継続してまいります。



〈竹トンボづくり〉



〈サイクリング〉



〈ペットボトルロケットづくり〉



〈発射体験〉

内山田七不思議探訪

南さつま市の学校外活動地域塾「内山田キッズわくわく塾」は、内山田小学校と連携し、10月の土曜授業を活用して「内山田七不思議探訪」を開催しました。

今年度は、内山田小学校の児童と教職員、わくわく塾員、保護者、校区民、講師の総勢28人の参加があり、竹屋ケ尾登山道中腹にある「へら竹山」を見学し、竹屋ケ尾登山を実施。登山終了後、近隣にある奇岩「玉虫石」を見学しました。この他に、「鳴石」を見学するコース、「陰陽石（立神）」を見学するコース」と3年ローテーションで実施しております。

「へら竹山」は、木花咲耶姫が竹屋ケ尾の地で三皇子を出産され、へその緒を切って捨てた竹刃が根を生じ竹林になった所。「玉虫石」は、玉虫（小蛇）の住む岩で、昔からこの玉虫を見れば吉事があると言い伝えられ、土地の神様として尊ばれているものです。子供たちは、地元の講師から、内山田の七不思議について説明を受けたり、地域の方々と一緒に竹屋ケ尾を踏破したりすることを通して、郷土愛を育み、達成感を味わうことができましたようでした。

今後も、学校と連携しながら、子供たちの健全育成を図るとともに郷土愛を育てるため、この活動を続けてまいりたいと考えています。



〈へら竹山の説明〉



〈竹屋ケ尾登山〉



〈玉虫石の説明〉



令和3年 南九州市成人式

令和3年1月3日（日）に南九州市成人式を開催しました。

今回は、新成人に対し事前にメールや市のホームページで、新型コロナウイルス感染予防に対する注意喚起をお願いするとともに、当日は受付時の検温、時間短縮、入場制限、座席間隔の確保などの感染防止対策を十分行ったうえで式典を実施しました。

新成人 265 人が出席し、実行委員の角大基さんと大原実夕さんが、代表して新成人としての抱負、家族や周囲の方々への感謝の気持ちを力強く述べました。

また、今回初めての試みとして、参加できなかった新成人やその家族に対して、式典のオンライン配信を行い、会場付近の屋外モニターへ映像を流しました。



〈新成人代表スピーチ（角大基さん）〉



〈成人式実行委員会のみなさま〉



〈新成人代表スピーチ（大原実夕さん）〉

南九州市子ども会 イン・リーダー研修

南九州市子ども会イン・リーダー研修会を令和3年1月11日（月・祝）に南薩少年自然の家で開催しました。小学生9人、中学生2人、合計11人が参加しました。

入所式のあと、参加者は6人と5人に別れて、班ごとに行動しました。

午前中、ジュニア・リーダークラブ（高校生）によるレクリエーションと市子連シニア・リーダーによる危険予知トレーニングを行いました。

当初は、なかなか話が出来なかった参加者同士が、自己紹介を交えたレクリエーションなどをおして、徐々に打ち解けていきました。

危険予知トレーニングでは、ピクニック中の絵を提示し、危険な行動・場所をお互いあげていき、どのようなことに気を付けて活動しなければならないかを学びました。

午後の活動は、サイクリングで山や海の景色を楽しみながら、チェックポイントで班ごとにクイズを解き、点数を競い合いました。

この研修をとおして、子ども会のリーダー育成及び会員の親睦を深めることができました。



〈サイクリングの風景〉

枕崎市

はり ま すぎ はら
播磨枳原

S50.5.8 市指定

みやこ にしき ほうえい ほぼく にゆうろう ざんしゅ か ごきんざん いそう
都の錦が宝永元年(1704年)捕縛され入牢、自ら斬首を願ひ出るが翌年(1705年)鹿籠金山に移送される。
たいしや かみがた か ごきんざん はいるちゆう ぶ けものがり
宝永5年(1708年)の大赦で上方に戻ることになるが、その際、鹿籠金山に配流中に書いた武家物語の播磨
きんざんやくにん せき ばんしゅうあこう あさのながのり にんじょう てんまつ
枳原を金山役人の関氏に渡したとされる。播洲赤穂の城主浅野長矩が江戸城中において刃傷に及んだ顛末か
らおおいし あだ う こうだんふう
ら大石ら47人が仇を討つまでを、講談風にあつかったもの。

昭和55年12月、長崎大学助教授若木太一氏により翻刻され、同月15日発行の「江戸時代文学誌第一号」
によって全国に紹介された。播磨枳原は他に東北大学狩野文庫、静嘉堂文庫本、穎原文庫本などがあるが、
いずれも写本で、この播磨枳原が都の錦の自筆の原本とされている。



指宿市

としながり ゆうきゅうかきおどり
利永琉球傘踊

H4.4.15 市指定

利永琉球傘踊は指宿市山川利永に伝わる踊りであり、1992(平成4)年に市指定無形民俗文化財に指定されています。利永に古くから伝承されてきた琉球傘踊は、第二次世界大戦とその後の混乱期に一時中断していましたが、1977(昭和52)年に利永小学校創立100周年を機会に約30年振りに復活しました。以来、保存会が組織され、年毎に若者たちへの継承が続けられています。

琉球踊は、地域性の濃い民俗芸能で、近世琉球貿易とゆかりの深い南薩地方に多く分布しており、山川港はその伝承地として重要な位置を占めていました。

地理的に利永は、山川港と枚聞神社を結ぶ道(穎娃山川筋)の途中にあり、山川滞在中の琉球使節団一行が枚聞神社を参拝する時の道筋にあたります。そのため、当時の人々は一行と接する機会が多かったと考えられています。一行の踊りを真似たものが、今日まで受け継がれたとされています。

踊りは、「傘踊」と「かれよしの唄」で構成されています。「傘踊」では、決死の覚悟で琉球から船出したことや道中の様子が、「かれよしの唄」では、無事大役を果たした使者たちの安堵の想いが踊られています。

利永琉球傘踊は、沖縄の「上り口説」がその源流と考えられ、琉球と薩摩の文化交流の跡が、長い年月の間に様々な変遷を経て今日に継承されています。



〈利永琉球傘踊 練習風景〉



〈利永琉球傘踊 本番〉

南さつま市

あ た かいづか 阿多貝塚

R 2.3.24 国指定

阿多貝塚は、九州南部における代表的な縄文時代前期の貝塚です。

昭和 53 年の発掘調査では、縄文時代前期の人々によって廃棄された貝殻が堆積した貝層のほか、数多くの土器・石器などが発見されました。

阿多貝塚は、海岸線から 3 km 以上離れた舌状台地の上に立地していますが、当時は、この貝塚の近くまで海が迫っていたと考えられています。貝層を構成する貝種は、マガキ・ハマグリを主体として、海水性・汽水性・淡水性・陸産の種に及んでおり、貝塚が形成された当時の遺跡周辺の自然環境がうかがえます。

阿多貝塚は、縄文時代前期の阿多 V 類土器が発見された遺跡であり、また縄文時代早期から縄文時代前期の土器編年を考察する上でも、示唆を与えた遺跡です。さらに、いしやじり 石鏃・いしきじ 石匙・いしおの 石斧・ぼうじょうたさいし 棒状敲石・すりいし 磨石などの石器各種や、イノシシ・シカなどの獣骨も出土し、貝塚構成種から判明する周辺環境などの情報と併せて、当時の生業や景観などを考察する上でも、学術的に極めて価値の高い重要な遺跡です。



〈阿多貝塚（史跡全景）〉



〈阿多 V 類土器〉
(歴史交流館金峰展示)



〈マガキ（上）〉



〈ハマグリ（下）〉

(南さつま市
埋蔵文化財センター収蔵)

〈阿多貝塚から出土した土器や貝殻〉

南九州市

りくぐんよんしきせんとうき はやて 陸軍四式戦闘機「疾風」(1446号機)

R2.11.19 市指定



〈陸軍四式戦闘機「疾風」〉

四式戦闘機「疾風」は、太平洋戦争中に中島飛行機株式会社により開発された陸軍機です。戦況が悪化した頃に正式採用されたにも関わらず、性能に優れた「疾風」は約 3,500 機が生産されました。戦後は 1 機のみアメリカ軍から博物館へ移管され、その後、日本人実業家に買い取られ、国内の複数の博物館を経て旧知覧町が入手し、現在は知覧特攻平和会館で展示されています。

本物件は、機体及びカウリング（エンジンカバー）に「1446」と機体固有の製造番号があり、履歴を辿ることが

可能です。この機体が知覧に所在した記録はありませんが、飛行第 103 戦隊の「疾風」が知覧飛行場に展開し、特攻機の掩護えんごを行うなど活躍しています。

当時の飛行機製造技術の水準を示す産業遺産としての価値が高い事、製造番号により真正性が担保され、オリジナル度が高い唯一の現存機という希少性、特攻の歴史を伝える資料として 20 年以上にわたって展示されていることから、令和 2 年に南九州市指定文化財となりました。



〈製造番号 (1446)〉